

2025 年度(令和 7 年度)

学校関係者評価報告書

学校法人東北外語学園

日本国際学園大学キャスウェル外語

エアライン・ホテル&ブライダル専門学校

## 2025年度（令和7年度） 学校関係者評価報告書

学校法人東北外語学園 日本国際学園大学東北外語ビジネス専門学校では、「自己評価報告書」の結果について学校関係者評価委員会を開催いたしました。内容について以下の通りご報告いたします。各委員から頂いた貴重なご意見、ご提言等を今後の教育活動、学校運営に反映させるべく、教職員一同努力してまいります。

1.対象期間：2025年（令和7年）4月1日～2026年（令和8年）3月31日

2.開催日時：2026年（令和8年）6月5日（金） 18:30～20:00

3.開催場所：日本国際学園大学キャスウェル外語エアライン・ホテル&ブライダル専門学校

### 4.学校関係者評価委員会

#### 【学校関係者評価委員】

曾根 洋明 氏 公立大学法人 宮城大学  
基盤教育群 教授  
国際交流・留学生センター センター長

今野 英治 氏 東日本急行株式会社 社員

水上 奈央子 氏 有限会社八千代 杜のホテル仙台 社員（欠席）

日出山 隆司 氏 卒業生（同窓会副会長）

#### 【事務局】

橋本 二郎 日本国際学園大学キャスウェル外語エアライン・ホテル&ブライダル専門学校長

滝上 正太郎 日本国際学園大学キャスウェル外語エアライン・ホテル&ブライダル専門学校 教頭

橋本 達也 専門教育センター 広報統括

屋代 励子 日本国際学園大学東北外語ビジネス専門学校 副校長  
専門学校事務室 室長

## 5.学校関係者評価報告

### (1) 教育理念・目標

- ・特に意見、質問等はなし

### (2) 学校運営

・学校運営においては学生の確保が重要であるが、少子化が進む中で学生募集のためにどのような取組を行っているのか、また他校にはない特色やPRポイントは何かとの質問があった。

高校生が学校を調べる方法は以前と変化しており、まずInstagramやTikTokなどのSNSを確認した上でホームページを閲覧するケースが多いことから、「楽しそう」と感じてもらえることを意識した広報を行っていることを説明した。

具体的には、首都圏研修やブリティッシュヒルズ研修、仙台空港研修などの研修を特色としてパンフレットで紹介していること、どの学科でも研修に参加できることを伝えるため、研修の様子が分かる写真を多く掲載していること、研修での学びが就職につながることを伝えるよう工夫していることを説明した。

### (3) 教育活動

・社会全体で人手不足が課題となっている中、教職員の採用や確保においても同様の状況があるのか、また人手不足により一部の教職員の負担が大きくなる傾向はあるのかとの質問があった。

学校からは、2025年度は人員不足により兼任業務が重なり対応に苦慮したが、2026年度は増員により学生対応等に充てる時間をこれまでより確保できるようになったことを説明した。

・学科編成およびカリキュラムの見直しについて説明した。学生数に対するコスト面も考慮に入れた適正なクラスサイズについて前年度より検討を重ね、英会話の授業は学科別ではなく全学科をまとめて一本化したこと、それによって一クラス10~20名程度のレベル別クラス編成が可能となっていることを説明した。

### (4) 学修成果

・就職先は、不動産業、サービス業、空港関連業、通信業、建築業、小売業、事務職、旅行業などへの就職のほか、大学編入の事例があることを説明した。エアライン学科については航空業界への就職が多く、ホテル学科についてはホテル業界への進路が中心となっていることを説明した。

・退学率について質問があり、キャスウェルでは1年生23名中1名の退学、2年生は退学者がいなかったこと、過去には10%を超える退学率であった時期もあった

が、AO 入学者を対象としたプレカレッジの実施により、入学前に顔を合わせる機会が増えることとなり、これが退学率の低減につながっていると思われることを説明した。

#### (5) 学生支援

- ・学生への支援については適切に行われているとの評価があり、今後も引き続き充実した取組を進めてほしいとの意見があった。

#### (6) 教育環境

- ・Wi-Fi への接続状況やコンピュータ環境の整備体制について質問があった。

学校からは、Wi-Fi については担当業者と連携し、発生した不具合についてはその都度対応していること、また機器の破損や経年劣化があれば業者に報告し、学生が安定して学習できる環境の維持に努めていることを説明した。

また、コンピュータ専門の常駐スタッフについては配置しておらず、現状は発生ベースで兼任により対応していることを説明した。

- ・これに対し、兼任対応では専門的な対応に限界がある場合もあるため、専任の担当者の配置や外部専門人材の活用が望ましいのではないかとの意見があった。

#### (7) 学生の受入れ・募集

- ・学納金の金額について質問があった。

学納金については、学生が学校を選択する際の基準の一つになるとの意見があり、適正な水準であるとの認識のもと、充実した授業や研修を実施するために必要な費用であることを説明した。

#### (8) 財務

- ・令和7年度は、令和6年度に比べて大きく収支が改善したことを説明した。今後についても、学生募集の強化と適切な経費管理を進めながら、安定した学校運営に努めていくことを説明した。

#### (9) 法令等の遵守

- ・特に意見、質問等はなし

#### (10) 社会貢献・地域貢献

- ・学校の資金を活用し、ボランティア的な公開講座を実施することは学校のPRにつながるなどの提案があった。また、保護者にも取組が伝わることで、学校の評価向上や学生募集にもつながるとの意見があり、学校主体で企画・実施することが望ましいとの意見があった。